

機能主義翻訳理論による日中テキスト翻訳に関する研究

—北海道アドベンチャー・ツーリズムに関する 中国語簡体字パンフレットを中心に—

Research on Japanese-Chinese text translation based on functionalist translation theory
—Focusing on Chinese pamphlets about Hokkaido Adventure Tourism—

劉 玕

LIU, Gan

北海商科大学

本研究の目的は、北海道アドベンチャー・ツーリズムに関する中国語簡体字のパンフレット 7冊を対象に、機能主義翻訳理論（スコポス理論、一貫性規則、忠誠性規則）に基づいて、内容面および書式面の視点から、テキスト翻訳の問題点を明らかにすることである。さらに本研究で指摘した問題に対する解決策を検討する。本研究を通して、北海道のアドベンチャー・ツーリズムに関し、より多くの中国人観光客へのより妥当な翻訳を提示することにある。

キーワード：機能主義翻訳理論、北海道観光、パンフレット

1. はじめに

日本政府は2003年に「観光立国」というスローガンを打ち出し、2006年には関連法案が公布された。その一環として日本の観光産業を推進するための重要な原動力となっているのがインバウンドである。

北海道は日本有数の人気観光地であり、インバウンドは北海道の経済発展に大きな恩恵をもたらしている。また、北海道の観光産業の強みの一つは雄大な自然であり、多くの観光客が北海道のアドベンチャー・ツーリズムに魅力を感じている。したがって、より多くの中国人観光客に対して、観光環境整備の要素として多言語対応、特に中国大陆の観光客に対する中国語簡体字の対応がきわめて重要である（注1）。観光パンフレットは直観的な宣伝資料として、そのテキスト翻訳が重要な役割を果たしている。

本研究は、新千歳空港国際線到着ロビーに位置する北海道外国人観光案内所で収集した7冊（注2）の北海道内の自然観光スポット、およびテーマパークの観光パンフレットを対象にして、機能主義翻訳理論（スコポス理論、一貫性規則、忠誠性規則）に基づいて、観光翻訳に関する中国語簡体字版の問題点を考察したものである。本研究を通して、より多くの中国人観光客に対して、北海道のアドベンチャー・ツーリズムに関する妥当な翻訳を提示することができるとともに、観光翻訳の課題に対する解決策を論じる。

2. 先行研究

観光翻訳に対する先行研究について、宮（2021）が、詳細に論じている。例えば、日本語には「観光・旅行分野の翻訳」という言い方があるが、「観光翻訳」という言葉がない。それに対して中国語では、「旅遊翻訳」が既に翻訳の一分野を表す術語として定着している（注3）（宮 2021、p. 102）。日本では観光翻訳に関する研究は少ないが（注4）、中国では非常に盛んに行われていることを指摘した。

傅等（2018）は日本の観光地にある施設の案内表示言語、飲食店メニュー、および案内標識と宿泊施設案内言語に関する中国語簡体字の表記を対象として考察した。その対象について、翻訳の主な問題を3つの観点で分類できることを示した。すなわち、翻訳ソフトに頼り過ぎないこと、日本の文化背景を伝えること、そして翻訳の対象に応じて翻訳のステップを変えることである。

観光翻訳といっても、その目的や種類によって異なる。本稿の研究対象は中国語簡体字版観光パンフレットのテキスト翻訳である。観光翻訳のテキスト翻訳について、中国では詳細に分類されている。蒲（1987）は、一般の外国人観光客を対象として、中国の観光事業および観光資源を紹介する外国語資料、すなわち書籍、写真集、画集、広告、パンフレット、ガイドライン、案内図、ガイドブック、ツアーガイドマップ、はがき、ビデオ、および動画記録など各種のテキストを挙げている。陳（2004）は、観光翻訳のテキスト翻訳とは第一線の観光担当者（とりわけツアーガイド）が業務上、よく用いる資料のテキスト翻訳のことであると指摘した。一方、賈（2004）は、観光テキストの機能について、観光資料の主な二つの機能、すなわち①情報の伝達、②行動の喚起があると指摘した。

観光翻訳のテキスト翻訳は実用的なテキスト翻訳であるため、その研究上、最も広く用いられている翻訳理論は機能主義翻訳理論である。前述した宮（2021）および傅等（2018）もこの理論を採用している。

3. 機能主義翻訳理論の概要

機能主義翻訳理論は、翻訳学における理論の一つであり、翻訳の目的や機能を重視するアプローチである。本理論の基本的な考え方は、翻訳が単に原文を忠実に再現することではなく、翻訳の目的に応じて翻訳が使用される文脈や目的を考慮し、適切な翻訳方法や選択で原文のテキストを再構築することが重要であり、翻訳されたテキストがターゲット文化や受け手に対してどのような役割を果たすべきかによって決定されるというものである。主な原則と特徴を以下に示す。

3.1 スコポス理論（Skopos Theory）

スコポスとは「目標」また「目的」を意味するギリシャ語である。「スコポス理論」は機能主義翻訳理論において最も重要な理論である。スコポス理論の基本的な主張は、訳文は翻訳の目的によって決定されるというものである。スコポス理論では、翻訳はコード転換のプロセスではなく、原文に基づく目的を持った結果指向的な行為であり、この行為は協議によって達成されなければならない。翻訳の目的を決定する上で最も重要な要素の1つは、それぞれの文化的背景の知識、翻訳への期待、コミュニケーション上のニーズを持ち、あらゆる翻訳の受け手となる訳文の読者である（符 2023、p. 39）。原文テキストには読者にとって文化的な属性が強く反映されていることが多いため、その翻訳では文化的障壁を取り除くことに重点を置き、最終的には当該読者が翻訳文を受け入れ、理解するという目的を達成する必要がある。

3.2 一貫性規則 (Intratextual Coherence)

機能主義翻訳理論における一貫性規則は、スコポス理論の重要な要素の一つであり、翻訳テキストがターゲット読者に対して一貫性を保ち、理解可能であることを求める原則である。これは、翻訳されたテキストがターゲット文化において適切に機能し、論理的でわかりやすいものでなければならないという考えに基づいている。翻訳がターゲット言語や文化においてどのように受け取られるかが重視され、内部一貫性と外部一貫性という2つのタイプの一貫性が求められる。

内部一貫性は、訳文自体が持つ論理的な一貫性や統一性を指す概念である。これには、文法的正確さ、文体の一貫性、語彙の選択や使い方が翻訳全体で一致しているかが含まれる。訳文の読者にとって内部的に結束性があり、理解できるものでなければならない(符 2023, p. 40)。詳述すると、訳文は、その文化圏における読者が理解できる内容でなければならない。文脈や状況に応じ、訳文が自然で意味が通じるものである必要がある。文中の要素が互いに矛盾せず、全体として一貫したメッセージを伝えることが重要である(Hans 1989, p. 56)。

外部一貫性は、訳文と原文の間にも一貫性がなければならない。訳文は、原文と適切に対応している必要があるが、この対応は「完全な等価性」を要求するものではない。翻訳の目的に応じて、読者や文化、使用文脈との適合性に焦点を当てて、どの部分を重視し、どの部分を最適化させるかが決まる。原文との一貫性は、翻訳のスコポス(目的)に基づいて判断される(符 2023, p. 40)。外部一貫性は、翻訳の機能を達成するために重要で、読者の文化的背景や知識、テキストが使用される具体的な文脈を考慮しなければならない。

この2つの規則は、重要性に応じて階層的に配置されている。外部一貫性は内部一貫性に従属し、2つの規則はスコポス規則に従属するものである。つまり翻訳者は、まず翻訳が意図した目的を達成することを保証し、次に翻訳が内部的に首尾一貫していることを保証し、最後に翻訳と原文の間の一貫性を保証しなければならないのである(符 2023, p. 40)。

3.3 忠誠性規則 (Loyalty Principle)

上述した外部一貫性は「忠実規則」とも言われている。スコポス理論の枠組みの中で、忠実規則はスコポス規則に従属する。しかし、目的規則に従って作られた訳文が、原文作者の意図に反していた場合、翻訳者はどう対応するのかという問いがあげられる。この問題に対して、Nordは「翻訳者が翻訳行為のパートナーに対して責任を有する」(Nord 2001, p. 125)という点を認識し、「機能+忠誠」理論を提唱した。「忠実」は常に原文と訳文の関係について言われるものであるが、忠誠の概念は人に対するもので、翻訳の依頼者と使用者のみではなく、原文作者に対しても翻訳者が責任を持つことを強調するのである(符 2023, p. 40)。つまり、翻訳行為は関与するすべての関係者への忠実さと責任を強調する重要な概念である。

この理論によれば、翻訳は原文の構造や内容に必ずしも忠実である必要はなく、ターゲット文化や読者に適応することが重要である。そのため、翻訳者は、原文の意味をどのように伝えるかにおいて、文化的、文脈的な違いを考慮する必要がある。換言すれば、翻訳の受け手を重視し、原文の意図やメッセージを歪めずに、原作者の意図に対して誠実さを保ち、ターゲット文化や読者が適切に理解できる形で翻訳を提供する。

本研究の研究対象は主に中国大陸の観光客をターゲットにした中国語簡体字パンフレットであるため、日本語原文を翻訳する際に、中国大陸の観光客の知識や文化的背景を踏まえ、北海道の

自然景観や人文風習を理解し、感じてもらうことは前提である。しかし、本研究の研究対象である7冊のパンフレットは、全て日本語原文に従って対訳であり、中国大陸の文化的背景や知識に合わない訳文、むしろ誤訳が現れることがわかる。それは、内容面のみではなく、書式面に現れている。本研究はその二つの面から考察する。

4. テキスト翻訳の考察

表1 研究対象7冊パンフレットについて

番号	原文タイトル	日本語訳	発行元
1	《上涌別郁金香导游手册》	『かみゆうべつチューリップ 公園ガイド』	湧別町役場商工観光課
2	《洞爷湖（中国語 （簡体字））》	『洞爺湖』	一般社団法人 洞爺湖温泉観光協会
3	《四季彩之丘》	『四季彩の丘』	株式会社 四季彩の丘
4	《国营滝野铃兰丘陵公园 （中文（簡体字））》	『国営滝野すずらん 丘陵公園』	国営滝野すずらん丘陵公 園 SPAC 滝野管理センター
5	《仙人庭園》	『大雪山旭岳ロープウェイ』	株式会社 ワカサリゾート
6	《Apoi 岳地质公园》	『アポイ岳ジオパーク』	様似町役場商工観光課
7	《知床五湖》	『知床五湖』	知床五湖 フィールドハウス

出所：筆者作成。

4.1 テキストの内容面

テキスト翻訳の内容は最も重要な部分として、その正確さ、および適切さは正しい情報と文化の発信と普及に関係するのみではなく、観光客の体験と観光地域の国際的なイメージの向上にも影響する。したがって、翻訳の目的（スコポス理論）、および一貫性規則に従って考察する。

4.1.1 固有名詞（地名、民族、現地料理など）の翻訳

観光客にとって、地名や観光スポットの名前は最も直観的で重要な情報である。その翻訳の妥当性は観光客の旅行体験には直接影響を与える。「網走」という地名について見てみよう。パンフレットによって、異なる訳が掲載されている。例えば、図1の訳は「网走」である。図2の訳は「纲走」である。確かに日本語の「網」と中国語の「纲」はきわめて似ているが、網走市観光公式サイトを調べたところ、図1の訳が正確である。

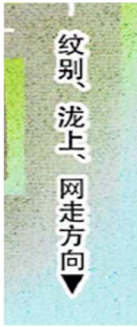


図1.《上涌別郁金香导游手册》



図2.《洞爷湖（中国語（簡体字））》p.14。

日本の民族多様性の重要な象徴としてのアイヌ民族は、その名称の翻訳について、観光のみならず、政治などの重要な問題にも関係している。「aynu」に関する翻訳について、日本語はカタカナで「アイヌ」と表示されている。その発音から次の二つの訳を見つけた。図3では最初の二つのカタカナ「ア」と「イ」の発音を一つの漢字「爱」に置き換えて「爱努」にしている。図4では「ア」と「イ」の発音をそれぞれ漢字にして、「阿伊努」に翻訳されている。

また、「アイヌ」の後に「族」をつけるのか、「民族」をつけるのか、あるいは何もつけないかという違いもある。「ウポポイ」（民族共生象徴空間）公式サイト中国語（簡体字）版を調べた。その翻訳は「阿伊努」と「阿伊努民族」であったが、「阿伊努族」という訳は見当たらなかった。一方、「阿伊努族」という訳について、札幌市総務局国際部の『外国語表記ガイドライン（英語・中国語・ハングル）』には「アイヌ族」と表記されている（注5）。中国では、中国少数民族に対して、基本的に「～族」と呼ばれる（注6）。「アイヌ族」という翻訳は、中国大陆の観光客にとって日本の少数民族であると思われる可能性が高いため、「阿伊努民族」の翻訳がより適切であろうと指摘する。



図3.《洞爷湖（中国語（簡体字））》、p.8。



図4.「ウポポイ」（民族共生象徴空間）公式サイトの中国語（簡体字）版

注：発行元：公益財団法人アイヌ民族文化財団。

図5のテキストについては、北海道特有の「ジンギスカン料理」をそのまま簡体字「成吉思汗」に置き換えている。中国語の「成吉思汗」といえば、歴史上の人物「成吉思汗（チンギス・ハーン）」を指す（注7）。日本語の「ジンギスカン」も同じの意味を指すが、後ろに「料理」が加わると「ジンギスカン料理」となり、主に烤羊肉（カオヤンロウ）（日本語：ラム焼肉）という意味である（注8）。日本農林水産省の公式サイトでも「ジンギスカン／成吉思汗」は羊肉料理のことを指している。現在、「ジンギスカン」という言葉の意味は広がっているが（注9）、初めて北海

道に來た中國大陸の観光客にとって、「鹿肉」と「成吉思汗」の関係を理解することは非常に難しく、不明や誤解が生じやすいと考えられる。



図5.《四季彩之丘》

同じ図5には、「原创罐装鹿肉」の下に「大和煮」、「咖喱煮」および「味噌煮」とある。そのうち、「大和煮」は日本語母語の影響を受け、日本語の漢字を用いて直訳されたものである。「大和煮」について、中國大陸の観光客にとって、歴史的知識がある人は「大和」の意味を知っているが、「煮」は一つの料理法である。したがって、「大和煮」になると日本固有の料理法と誤解されることがある。このテキストをみると、「咖喱煮」と「味噌煮」という表現により、やはり調味料による味付けの種類が主に強調されている。「咖喱煮」と「味噌煮」は直接にその調味料の漢字から味付けを判断できるが、「大和煮」からでは、一体どのような味付けを指すかの想像がつかない。

4.1.2 文体（書き言葉と話し言葉）の選択

観光パンフレットは、主に文字、写真などを通して、宣伝を行う紙媒体であるため、そのテキスト内容、および対象に応じて、文体の選択を決める。図6のテキスト翻訳の内容は交通情報である。一般情報として、特定の対象読者に対する具体的な要件もなく、特定の事物や事柄を具体的に描写するものではないため、その文体は書き言葉を使うのがより適切であろう。それによって、話し言葉である「来回」より、書き言葉の「往返」が適切といえる。図7には「如遇4月19日、22日是周日的话，公园开放」（4月19日と22日が日曜日である場合開園します。）は文法的には何の問題もない。しかし、パンフレットは文書であるため、正式な書き言葉にした方がよい。例えば、「若4月19日、22日为周日，公园开放。」などが考えられる。

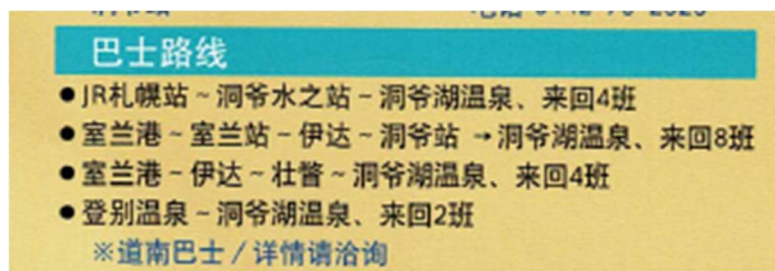


図 6. 《洞爷湖（中国語（簡体字））》 p. 14。

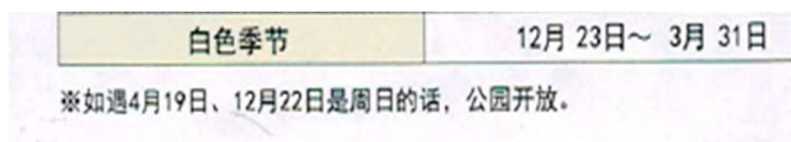


図 7. 《国营泷野铃兰丘陵公园（中文（简体字））》

4. 1. 3 文法

言語の根幹である文法規則は、翻訳者にとって非常に重要である。正しい文法はテキストの前提条件である。たとえ華やかな言葉の修飾が文章を彩るとしても、文法的な誤りがあれば翻訳全体に品質上のマイナス評価をもたらす。したがって、文法的な誤りは全く無視できないものである。テキスト翻訳の文法は訳者のレベルを表すことだけではなく、正確な情報伝達にも影響を与え、観光客に誤った情報を伝えてしまう可能性もある。機能主義翻訳理論によれば、とりわけ、内部一貫性には、文法的正確さを含める。翻訳の目的（機能）に基づいて、文法は翻訳の目的を達成するための道具であり、正確さを重視する上で、柔軟に扱うことができる要素として位置づけられる。

①基本的文法規則

図 8 にある「毎年的 8 月末便渐渐的开始出现红叶。」（毎年 8 月末になると徐々に紅葉が始まります。）には、2 番目の「的」の使い方が間違っている。正確には「地」を用いるべきである。すなわち、「毎年的 8 月末便渐渐地开始出现红叶。」にすべきである。単なる一文字ではあるが、テキスト翻訳の正確さと質を左右する極めて重要な文字である。一方、「的」と「地」のピンインは同じ「de」であり、入力ミスの可能性があるとしても、まさに文法的に校正する重要性があるであろう。

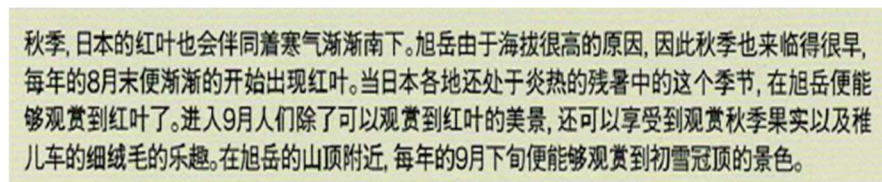


図 8. 《仙人庭园》

②誤った記述

図 9 のテキスト内容には、冒頭の「冬天的泷野公园变身为白雪皑皑的“白雪世界”！」（冬の

滝野は雪がたっぷりの「スノーワールド」に大変身！（注10）において、「白雪皑皑」と「白雪世界」の意味が重複し冗長である。「皑皑」はそもそも雪の白い色を表現する形容詞であるため、後続する「白雪世界」と自然に繋がり、文の音律および文法が、より適切であろう。

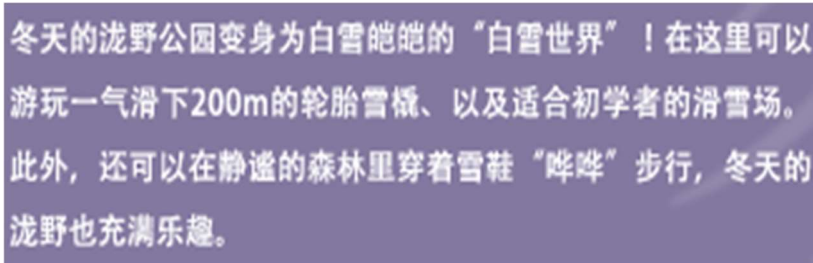


図9.《国营滝野鈴蘭丘陵公園（中文（簡体字））》

また、図10の「入場費需交费」も誤った記述である。正確には「需交入场费」（入場料の支払いが必要である）となる。



図10.《四季彩之丘》

図11の原文では、「地球深部からの贈りものがつなぐ 大地と自然と人々の物語」となっている。「つなぐ」と「大地」の間にはスペースがあり、「つなぐ」は「大地」の修飾語ではないため、訳文の「连接的大地」は妥当ではないである。また、原文には最も重要な「贈りもの」は「财富」（富、財、財産）と訳されているから、論理的に考えれば、「富」を使って、「大地」、「自然」および「人類」を繋いで物語にすることは合理的ではない。

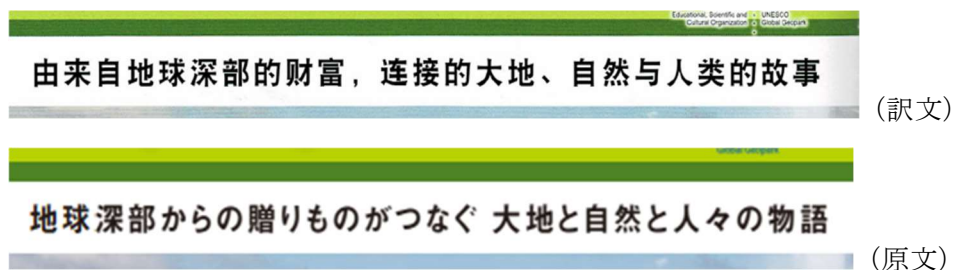


図11.《Apoi 岳地质公园》

4.2 書式面

書式面では主にテキストの脱落および誤訳を指摘する。換言すれば、テキスト翻訳のミスである。この現象は一般的に翻訳者の翻訳および知識のレベルとは関係なく、翻訳者や編集者など翻

訳関係者の一方または双方による不注意などが原因であることが多い。ここでは、まさに機能主義翻訳理論の忠誠性規則を重視している。

4.2.1 翻訳ミス

図12と図13は、パンフレットの編集者の不注意と想定される。中文简体字（中国語簡体字版）とすべきところ、図12は日本語の漢字で表示されている。図13は英語で表示されている。



図12. 《洞爷湖（中国語（簡体字））》の表紙



図13. 《知床五湖》

図14にある「无论那条路线都拥有无穷的魅力。」（どっちのルートにしても、魅力はたくさんある。）の「那」は誤りであり、正確には「哪」である。



図14. 《知床五湖》

4.2.2 漢字の混用

周知のように、中国も日本も漢字を用いる国である。同形同義の字も多いが、両国の漢字の微妙な違いを区別することが重要である。

図15のテキスト翻訳には、「花」、「茎」および「空」の文字があるが、実際にはすべて日本語の漢字である。中国語の簡体字は「花」、「茎」と「空」である（注11）。

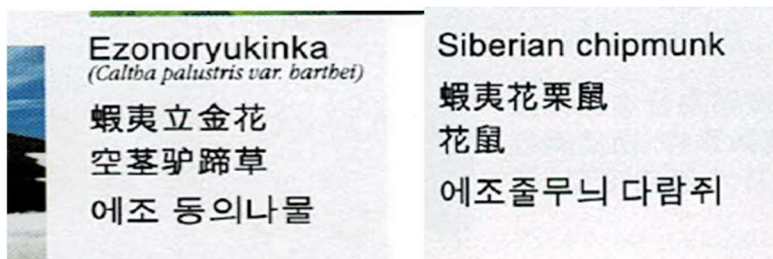


図15. 《仙人庭園》

注：「空茎驴蹄草」と「花鼠」は中国語簡体字の翻訳である。

また、中国では、主に簡体字が用いられる。台湾、香港などの地域は主に繁体字が用いられる。

図16には、「洿」と「瀧」の2種類のフォントがある。中国語簡体字版であるため、「洿」に統一しなければならない。これは、中国の簡体字と繁体字の混用である。



図16. 《国营洿野铃兰丘陵公园（中文（简体字））》

4.2.3 句読点および記号・符号の使用

句読点および記号・符号は、テキスト構成の一部として重要な役割を果たしているため、正しく使用しなければならない。中国では、中国語の句読点に関する国家基準（注12）が設定されている。

図17には、「欢迎来到这个由“水”、“火山”、“森林”构成的优美自然景观。」において、「、」の用法が誤っている。上述した国家基準では、「“ ”」が付いている並列テキストの間に、「、」を付けないと定められている（注13）。したがって、「欢迎来到这个由“水”“火山”“森林”构成的优美自然景观。」が正しい。また、図18の「“洿野垂钓“」の「钓」の次の「“」が誤っている。正確には「”」である。これは編集者の人為的なミスの可能性が高い。



図17. 《洞爷湖（中国語（简体字））》

在“洿野垂钓“可以钓到山女鱼和虹鳟鱼。您可以租赁带鱼饵的钓鱼竿，不论大人还是小孩，即便空手来也能轻松体会到垂钓的乐趣。

図18. 《国营洿野铃兰丘陵公园（中文（简体字））》

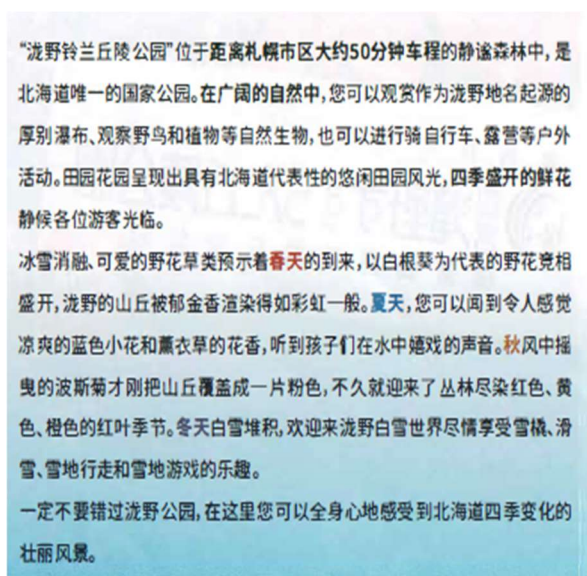


図 19. 《国营流野铃兰丘陵公园（中文（简体字））》

4. 2. 4 段落の字下げ

日本でも中国でも、文章を書く際に、段落の先頭を字下げにするルールがある。日本では一字下げ、中国では二字下げる。実際には、この問題について、明確な基準がないため、正誤の判断は難しい。段落や行頭の字下げは、Web や紙などの各媒体、さらに執筆者・出版社などの方針によってさまざまなルールがある。特に Web の場合は印刷物のように行数やページなどの制限がないため、段落を区別するために空行を入れるなど、いくらでも自由に設定することができる。

しかし、段落の字下げをすることによって、行頭に余白が生まれるので、視覚的に段落と段落の区別がしやすくなるから、文章全体で統一感を持たせ、読み手の立場に立った表現をすることが組版においてより重要である。上の図 19 は長文であるので、字下げをするとより読みやすくなると思われる。

5. 解決策

機能主義翻訳理論によれば、翻訳は目的を持った文化的な変換活動である(賈 2007、p. 9)。翻訳の過程において、翻訳方法・手段などの選択は、翻訳活動に関わるあらゆる関係者の現状に沿って、翻訳の目的を考慮しながら実施しなければならない。観光翻訳について、特に観光パンフレットやサイトのような文章の目的は読者への「情報伝達」、「行動喚起」にある(宮 2021、p. 105)。その目的を達成するために、「転写、省略、拡張、エキゾティシズム、更新、状況・文化の適応、創造」などを手段とする(表 1 を参照)。

表 2 翻訳手段

手段	解釈
転写	原文 (ST) の一部を起点言語 (あるいは原語) (SL) のまま写し取り、大抵はそれに直訳をつける。
省略	原文 (ST) の一部を削除・暗示化する。

拡張	原文（ST）の情報を本文や序・脚注・語注釈で明示化したり追加したりする。
エキゾティシズム	原文（ST）特有の表現であるスラング、方言、ナンセンス語などを目標言語（あるいは訳文語）の大凡の等価物に置き換える（斜体や下線を施すこともある）
更新	古い情報や不明瞭な情報を新しい等価物に置き換える。
状況・文化の適応	原文（ST）で使われた文脈を、目標読者に身近で文化的に適した文脈に作り替える。
創造	原文（ST）を全体的に置き換えて、本質的なイメージ、着想、機能だけを保持する。

出所：宮（2021）、p. 107。

ここで本稿は機能翻訳理論に基づき、上記で考察したテキスト翻訳の諸問題に以下の解決策を提言する。

地名・民族・現地料理などに関する固有名詞について、「拡張」手段を用いることができる。固有名詞は、ほぼ歴史的・文化的背景を有するものとして、関連する知識を持たない外国人観光客にとって理解しにくいいため、適切な説明的・解釈的なテキストを入れることが推奨される。

例えば、「大和煮」については注釈を書くべきであろう。「ジンギスカン」については、言葉の解釈を付ける際に、その由来を追加すればパンフレット情報価値を増やすことができる。さらにモンゴルおよび中国内モンゴル自治区といった「ジンギスカン」の意味が分かる観光客の親近感が高まり、より多くの観光客をひきつけることができる。

また、固有名詞について、訳者は各自治体や国による多言語案内表示ガイドラインをよく理解した上で、翻訳すべきである。

他方、中国人の美的概念に従って、風景や景色を描写する際に、華麗な修辞や押韻などの手法を用いて、人間の感情を表すことがしばしばある。それに対して、訳者は、北海道の雄大な自然環境に関するテキストを翻訳する際に、上述した「状況・文化の適応」に基づいて、適切な言葉の選択と描写技法を考慮しなければならない。正確な文法に従った上で、翻訳の表現にこだわる（注14）。自然観光を主とする北海道にとって、これは極めて重要と思われる。

テキスト面について、翻訳者と校正者が真摯に細心の注意を払うことが大前提である。また、中国語簡体字版の翻訳は中国大陆の出身者が担当するケースが多いと予想されるが、母語話者だからと言って翻訳の専門家として業務を遂行できるわけではない。翻訳および校正は、翻訳に携わり可能な限り専門的な関係者が行うことが望ましい。

6. おわりに

本研究は、北海道の自然環境をテーマとした中国語簡体字の観光パンフレットを対象に、機能主義翻訳理論に基づき、内容面と書式面から問題とその原因を考察し、改善点や留意点について検討した。

内容面については、地名、民族、および現地料理などの固有名詞の翻訳、文体の選択、および

文章の基幹である文法という3つの視点で、また書式面については、翻訳ミス、漢字の混用（日中漢字、中国語簡体字と繁体字）、句読点および記号・符号の使用、段落の字下げの4つの視点から、その研究対象のテキスト翻訳の問題点が明らかとなった。

改善に向けた提言は以下の通りである。固有名詞の翻訳について、機能主義翻訳理論に基づき、注釈などの「拡張」手段を用いることで、テキスト翻訳の補足・改善を図る。訳者は、各自治体や国による多言語案内表示ガイドラインをよく理解した上で翻訳すべきである。自然環境を観光資源とする北海道にとって、観光スポットの風景や景観を宣伝する際に、中国の美学概念に基づいて、さまざまな修辞や音韻などを踏む文章表現の技法を用い、文法的な正確さを確保することを前提に、適切に描写する必要がある。パンフレットの言語表現の質をより高めるために、翻訳する際に翻訳者および校正者が細心の注意を払うことを大前提として、専門的な翻訳会社や専門家を利用すべきであろう。

観光テキスト翻訳は観光産業に欠かせないものであり、その翻訳レベルは地域や国の国際的なイメージに直結し、地域観光産業の発展や文化発信にとって大きな意味を持つ。日本を代表する観光地のひとつである北海道は、自らの魅力を発信するには観光テキスト翻訳をより重視すべきである。それに伴う人件費の支出、専門翻訳者の人材不足と育成などさまざまな問題にも直面する。とりわけ生成AIの時代に、人為的なミスや負担はAI活用に代替されるようになる。その上で、人間の担うべき機能がいかなるものかがこれからの課題として考察する。

注

- 注1) 2019年に北海道を訪ねた外国人観光客は過去最高の244万人を記録した。そのうち、中国人（台湾・香港を除き）観光客は59万4000人（24.3%）であった。「コロナ禍」で一時的に停止状態となったが、再開後の最新データ（国土交通省北海道運輸局観光部国際観光課『北海道の観光基礎データ』2024年7月1日）により、2022年度の来道外国人観光客は69万人であり、中国人（台湾・香港を除き）観光客が2.2万人（3.2%）を占めた。これは「コロナ禍」前と比べ、かなり減少している。これからの大きな成長が見込まれる。
- 注2) この7冊の中国語簡体字版のパンフレットは、すべて対応する日本語版があり、テキスト内容はすべて日本語の翻訳物である。ところで、筆者の調査によれば、多くの外国人観光客向けの多言語パンフレットが陳列される場所は、主に二か所ある。すなわち、JR札幌駅付近の北海道さっぽろ観光案内所、および新千歳空港国際線到着ロビーにある北海道外国人観光案内所である。パンフレットの取り扱いの数を比べて、北海道外国人観光案内所のほうが比較的に多く、外国人観光客にとって、最も早く入手しやすい場所であると指摘する。
- 注3) 「旅遊翻訳」は「为旅游活动、旅游专业和行业所进行的翻译（实践），属于专业翻译（観光活動、観光専門・業界のために行われる翻訳（実践）であり、専門的翻訳に属する）」と定義され、観光パンフレット、案内サイン、解説パネルなどの観光と関係する文章に対する全ての翻訳活動を指すことができる。便宜上、「旅遊翻訳」の直訳として「観光翻訳」にする。
- 注4) 例えば、竹鼻圭子・戸塚敦子（2009）「観光と異文化間コミュニケーション：創造的翻訳への理論的取組」『観光学』第1巻。山川和彦（2019）「日本のインバウンド観光施策における言語政策の展開と展望—多言語化の進展を意識化する—」『社会言語科学学会』第22巻第1号などがある。
- 注5) 札幌市総務局国際部（2023）『外国語表記ガイドライン（英語・中国語・ハングル）〔令和5年度版〕』、p.78。
- 注6) 中国では、少数民族および民族地域に関する名称について、音訳されることが多い。例え

ば、「モンゴル族」は中国語「蒙古族(měng gǔ zú)」と表記する。ちなみに、中国ではその関連法案および地方規定に基づいて定められている。例えば、関連法案については、『少数民族語の地名の漢語ピンインでの音訳転写法』(《少数民族語地名的漢語拼音字母音譯轉寫法》)があり、地方規定については、『内モンゴル自治区の地名管理規定』(《内蒙古自治区地名管理規定》)などがある。

注7) 『辞海(下)』による。

注8) 『広辞苑(第六版)』による。

注9) ウィキペディアで調べて、広義には鹿肉や豚肉などを用いたジンギスカンもあり、それらを「鹿ジンギスカン」、「豚ジンギスカン」と呼称する。

注10) パークガイド(日本語)の「裏」による。

注11) ここでは、単なる使用フォントの問題ではない。日本語漢字の「花」の「化」の右側が「匕」である(日本漢字教育振興会(1995)『新漢字必携(漢検2級コース) 文部省認定』日本漢字能力検定協会、p.46。)。中国語漢字「花」が「匕」である(李行健『現代漢語規範辞典(第4版)』外語教学与研究出版社、2022年、p.584)。日本語漢字の「茎」は「艹」の下が「圣」であり、「又」と「土」の組み合わせである(同上『新漢字必携(漢検2級コース) 文部省認定』、p.85。)。中国語漢字の「茎」は「艹」の下が、「ス」と「工」の組み合わせである。ちなみに、同上『現代漢語規範辞典(第4版)』、p.723により、「圣」ではないと強調されている。「空」という漢字の部首はあなかんむりであるが、その筆順の5番目について、日本語の「空」が「たて曲がり」であり(同上『新漢字必携(漢検2級コース) 文部省認定』、p.46。)、中国語の「空」が「点(ななめ)」(同上『現代漢語規範辞典(第4版)』、p.787)ということである。

注12) 中華人民共和国国家質量監督檢驗檢疫総局・中国国家標準化管理委員会『中華人民共和国国家基準句読点の用法(GB/T 15834-2011)』(《中华人民共和国国家标准标点符号用法(GB/T 15834-2011)》)(中国標準出版社、2012年)は、中華人民共和国教育部言語文学情報管理局の管轄下にある国家技術監督局(SBTS)が1995年12月に承認した国家基準句読点の用法(GB/T 15834-1995)に代わりに、2012年6月1日に施行された中華人民共和国の国家基準である。この『用法』(GB/T 15834-2011)は、現代中国語における句読点の使用法を規定している。この規格は、中国語の文語(中国語および外国語が混在している場合の中国語部分を含む)に適用される。

注13) 同上『中華人民共和国国家標準句読点の用法(GB/T 15834-2011)』、p.5。

注14) 今日まで中国の翻訳界の主流を占めてきた一つの価値観としての「信・達・雅」(嚴復(1898))において、訳文の美しさ、そして言語表現が優雅である「雅」が強調されている(郭芳(2016)「信達雅翻訳理論的發展研究」『教育理論与实践』第36巻)。また、中国の文学者・教育者である林語堂も、翻訳の三基準(忠実さ、わかりやすさ、美しさ)の「美しさ」を上げた(劉全国・馬存智(2024)「林語堂“美訳”思想的發凡与建構考論」『翻訳研究』第01期)。

【参考文献】

傅翔、康茗淞、張昭誼、伊藤篤、平松裕子、原田康成、佐々木陽、波多野裕之(2018)「観光地における中国語表記の課題」『2018年度日本認知科学会第35回大会』、2018年、pp.278-287。

辞海編輯委員会(1979)『辞海(下)』上海辞書出版社、1979年、p.3783。

新村出編(2008)『広辞苑(第六版)』岩波書店、2008年、p.1440。

中華人民共和国国家質量監督檢驗檢疫総局・中国国家標準化管理委員会(2012)『中華人民共和国国家基準句読点の用法(GB/T 15834-2011)』(《中华人民共和国国家标准标点符号用法(GB/T 15834-2011)》)中国標準出版社、2012年、p.5。

郭芳(2016)「信達雅翻訳理論的發展研究」『教育理論与实践』第36巻、pp.57-60。

劉全国・馬存智(2024)「林語堂“美訳”思想的發凡与建構考論」『翻訳研究』第01期、pp.145-

149。

日本漢字教育振興会（1995）『新漢字必携（漢検2級コース） 文部省認定』日本漢字能力検定協会、p. 46、85。

李行健（2022）『現代漢語規範辞典（第4版）』外語教学与研究出版社、p. 584、723、787。

【引用文献】

宮偉（2021）『日中観光翻訳におけるアダプテーション「忠実」への検討を兼ねて』「城西国際大学紀要」第29巻第2号、pp. 101-115。

蒲元明（1987）「談話旅游資料英訳的幾個問題」『中国翻訳』、1987年第3期、pp. 30-33。

陳剛（2004）『旅游翻訳与涉外導游』中国對外翻譯出版公司、2004年、p. 38。

賈文波（2004）『応用翻訳功能論』中国對外翻譯出版公司、2004年、p. 106。

符曉旭（2023）「中国における翻訳理論と翻訳教育—大学日本語翻訳教育と機能主義的翻訳理論の可能性—」『東亜大学紀要』第36号、pp. 39-40。

Vermeer, Hans J. (1989): Skopos and Commission in Translational Action. In: Lawrence Venuti (ed.), The Translation Studies Reader. London: Routledge. pp. 56—60.

Nord, C. (2001), Translating as a Purposeful Activity: Functionalist Approaches Explained, Manchester: St. Jerome. p. 125.

崔衛生（2012）「漢英旅游文本翻訳研究総述」『惠州学院学報（社会科学版）』第32巻第4期、p. 49。

賈文波（2007）『功能翻訳理論対応用翻訳的啓示』上海翻訳、2007年、p. 9。

【引用サイト】

国土交通省北海道運輸局観光部国際観光課（2024）『北海道の観光基礎データ (<https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/content/000284820.pdf>) [2024年7月15日参照] .

網走市観光公式サイト簡体中文版（2024） (<https://visit-abashiri.jp/zh-CHS/>) [2024年7月15日参照] .

「ウポポイ」（民族共生象徴空間）公式サイト中国語（簡体字）版（2024） (<https://ainu-upopoy.jp/cn/wp-content/uploads/sites/4/2020/08/73da1712e654238dc7e5bb2c650b6e03-1.pdf>) [2024年7月15日参照] .

札幌市総務局国際部（2023）『外国語表記ガイドライン（英語・中国語・ハングル） [令和5年] (https://www.city.sapporo.jp/kokusai/documents/2023_ikkatsu_hyoki_guidelines_ech.pdf) [2024年7月15日参照] .

農林水産省（2024）「ジンギスカン／成吉思汗 北海道 | うちの郷土料理」 (https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/k_ryouri/search_menu/menu/jingisukan_hokkaido.html) [2024年7月15日参照] .

ウィキペディア（2024）「ジンギスカン（料理） - Wikipedia」 ([https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%B3%E3%82%AE%E3%82%B9%E3%82%AB%E3%83%B3_\(%E6%96%99%E7%90%86\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%B3%E3%82%AE%E3%82%B9%E3%82%AB%E3%83%B3_(%E6%96%99%E7%90%86))) [2024年7月15日参照] .

北海道湧別町公式ホームページ（2024）「ガイドマップ簡体字（简体字）」 (town.yubetsu.lg.jp/)

common/img/content/content_20210304_142118.pdf) [2024年7月15日参照] .
滝野公園公式ウェブサイト (2024) 「园区指南简体字」 (<https://www.takinopark.com/takino-wp/wp-content/uploads/2024/03/365396646Fa2dc92f200597a301708ac-1.pdf>) [2024年7月15日参照] .
滝野公園公式ウェブサイト (2024) 「パークガイド(日本語)の「裏」」 ([takinopark.com/takino-wp/wp-content/uploads/2024/03/1066578e54829ac9a3e9f9f5f1c4fd99-1.pdf](https://www.takinopark.com/takino-wp/wp-content/uploads/2024/03/1066578e54829ac9a3e9f9f5f1c4fd99-1.pdf)) [2024年7月15日参照] .
大雪山旭岳ロープウェイ (2024) (asahidake.hokkaido.jp) [2024年7月15日参照] .
アポイ岳ジオパーク公式サイト (2024) (https://apoi-geopark.jp/file/pdf/apoi_leaf.pdf) [2024年7月15日参照] .

(査読論文 2024年7月30日受理)